

^ 13
3785
19

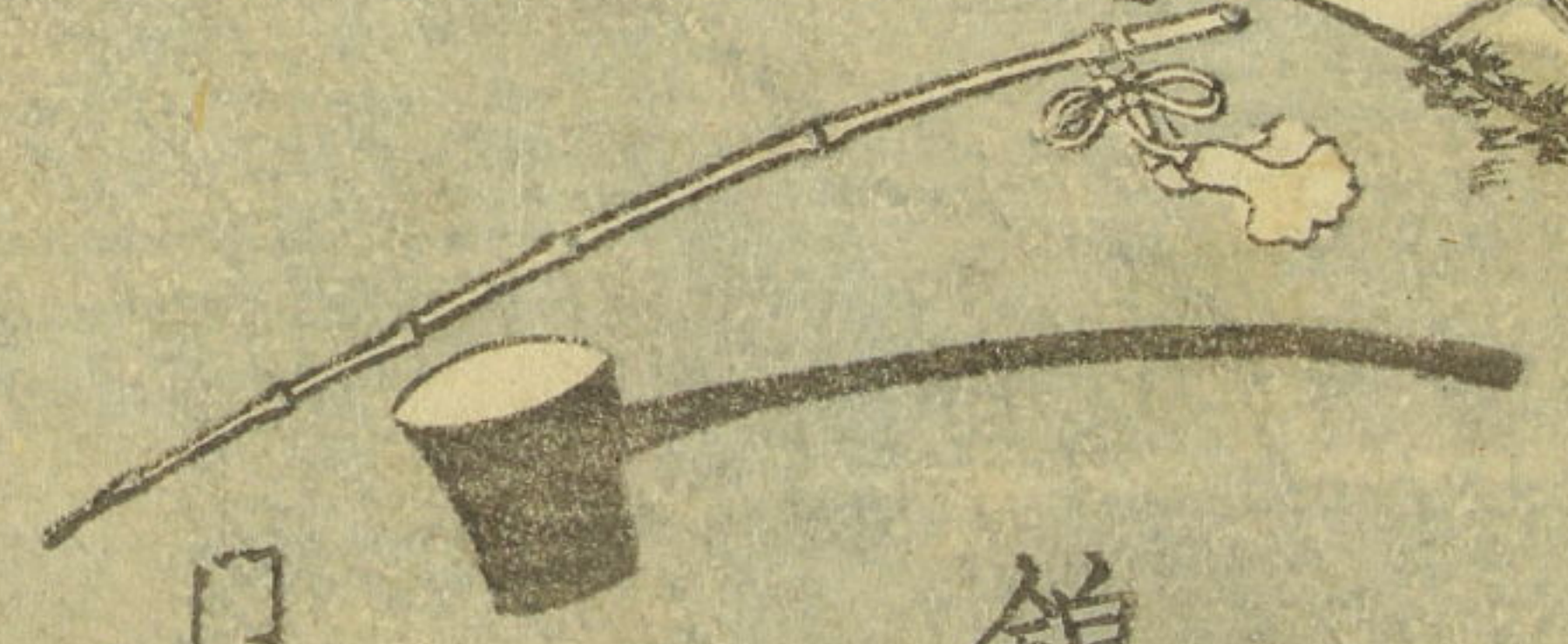


門へ13
3785
19

釋迦八相

倭文庫十編上

万亭應賀作
一陽齋豊國画



孟陽

錦重

堂

上梓

只
國政

一

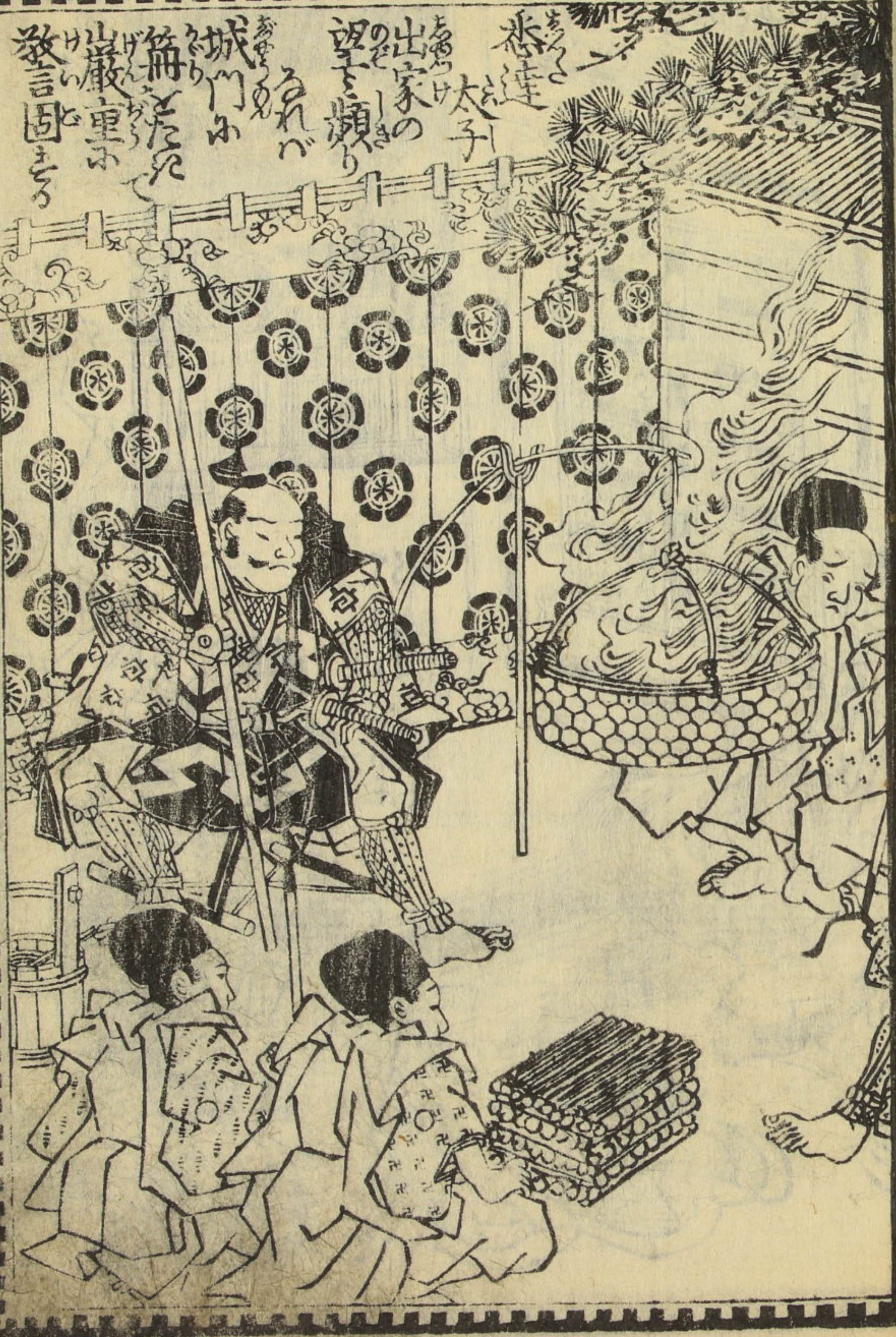
釋迦八相倭文庫拾編序

一書曰太子成人て出家の發願切るれば父帝波女羅門
 優陀夷を召て太子の友とすしふふれ諫之と止とるく十
 十歳也耶輸陀羅女を娶れど契室の念更不くる十九
 歳也老無病不死不別此四の願以叶は出家の望を
 切へしと云帝愁ひて是の得と不能今朕嗣子ほ有一子や許ん
 とのり太子とす多ち耶輸陀羅女を腹と指さむ忽羅睺羅
 天より言及没きて化託あり其夜捷歩の馬ふ乗り車運
 て檀持山へ赴く時ふ周の昭王四十四年二月八日と云此説
 異もみる戲作のまことと讀め

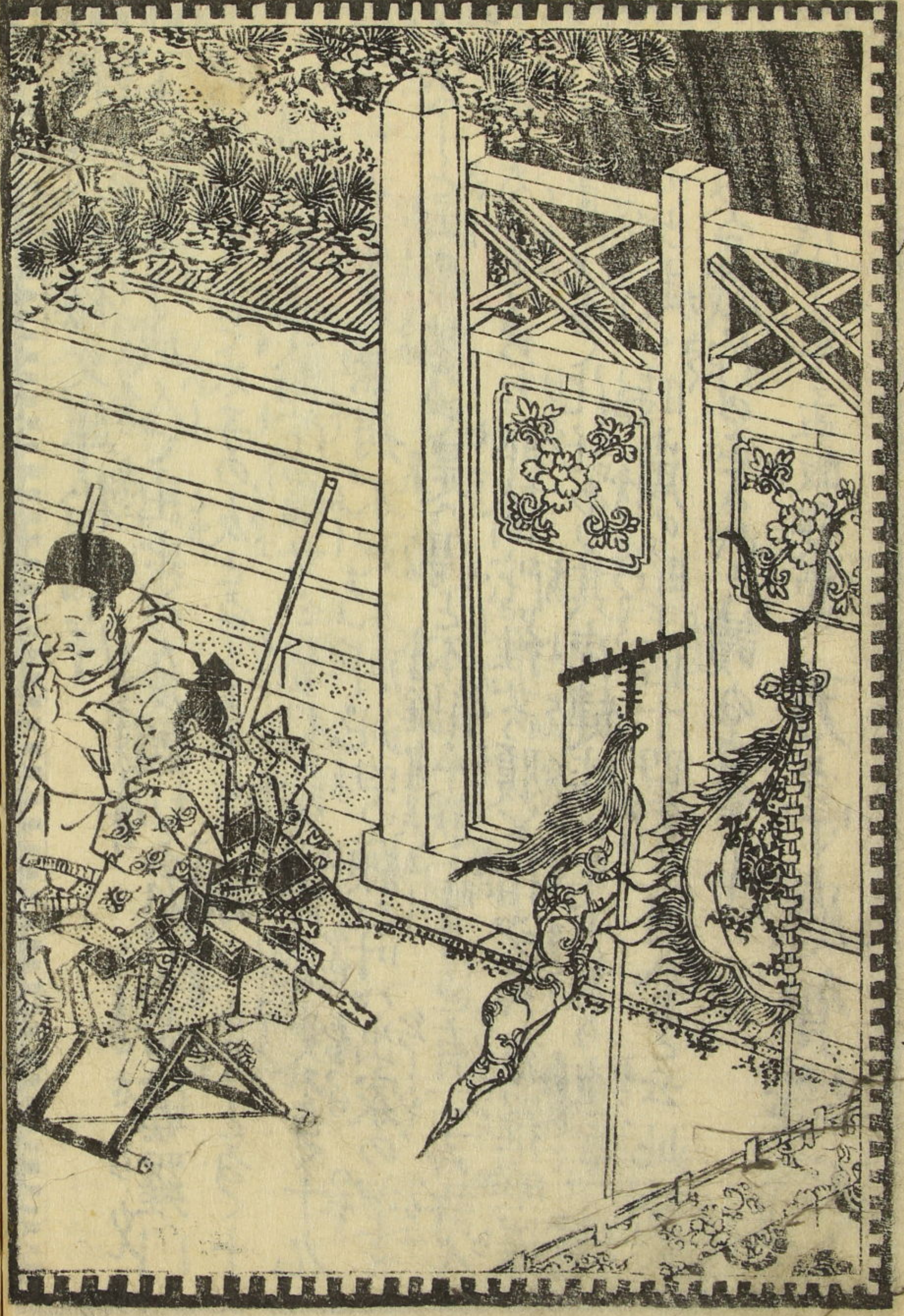
弘化五戊申年孟版發齋

万亭應賀識





悉達
 出家
 望み
 城門
 厳重
 敬言固まる



悉達
 出家
 望み
 城門
 厳重
 敬言固まる

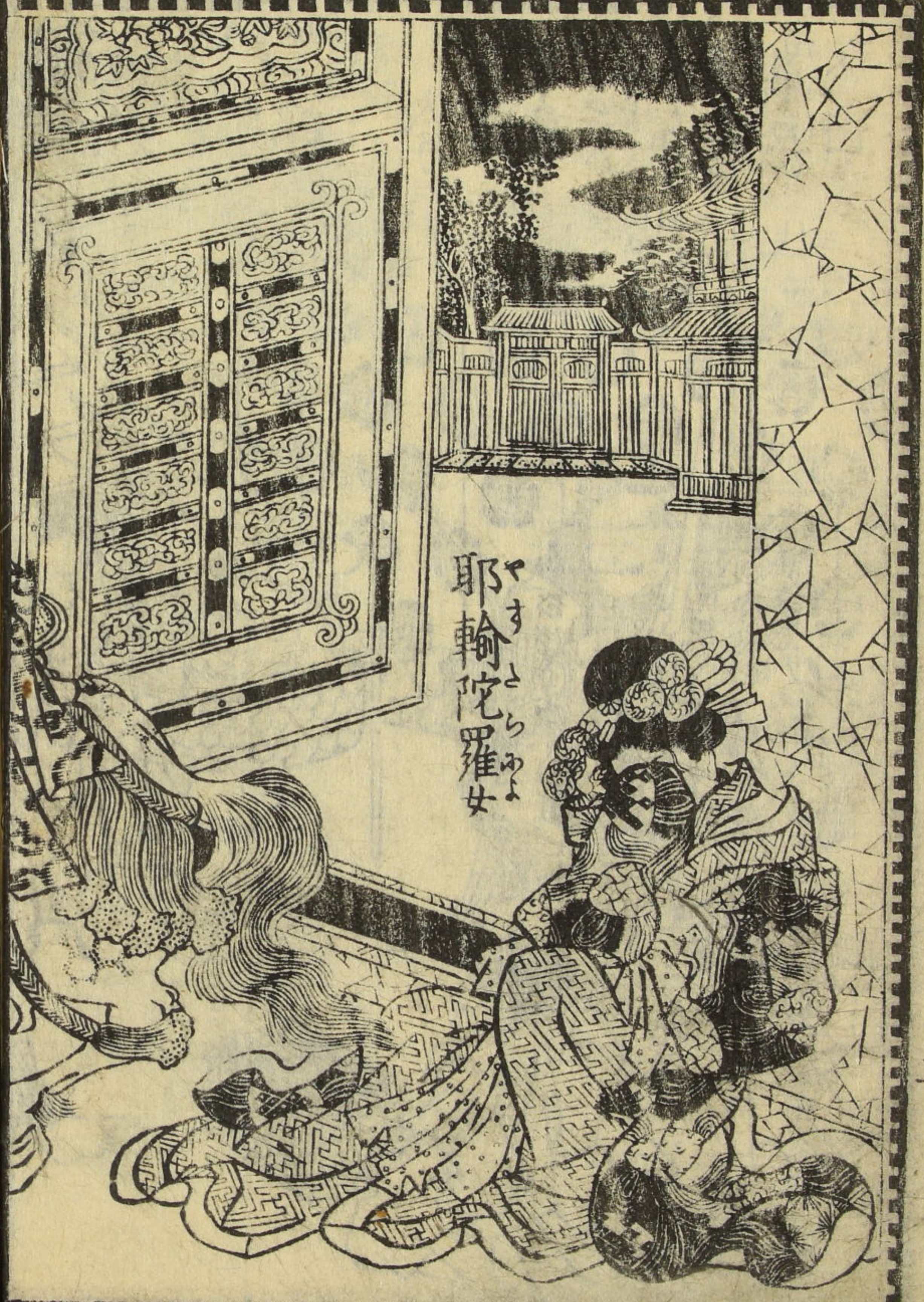


悉達太子
十九歳
懐妊の姫
振捨車
連て檀持山の
峯へ
面
向
す

悉達太子

舎
車

床
女
入
車



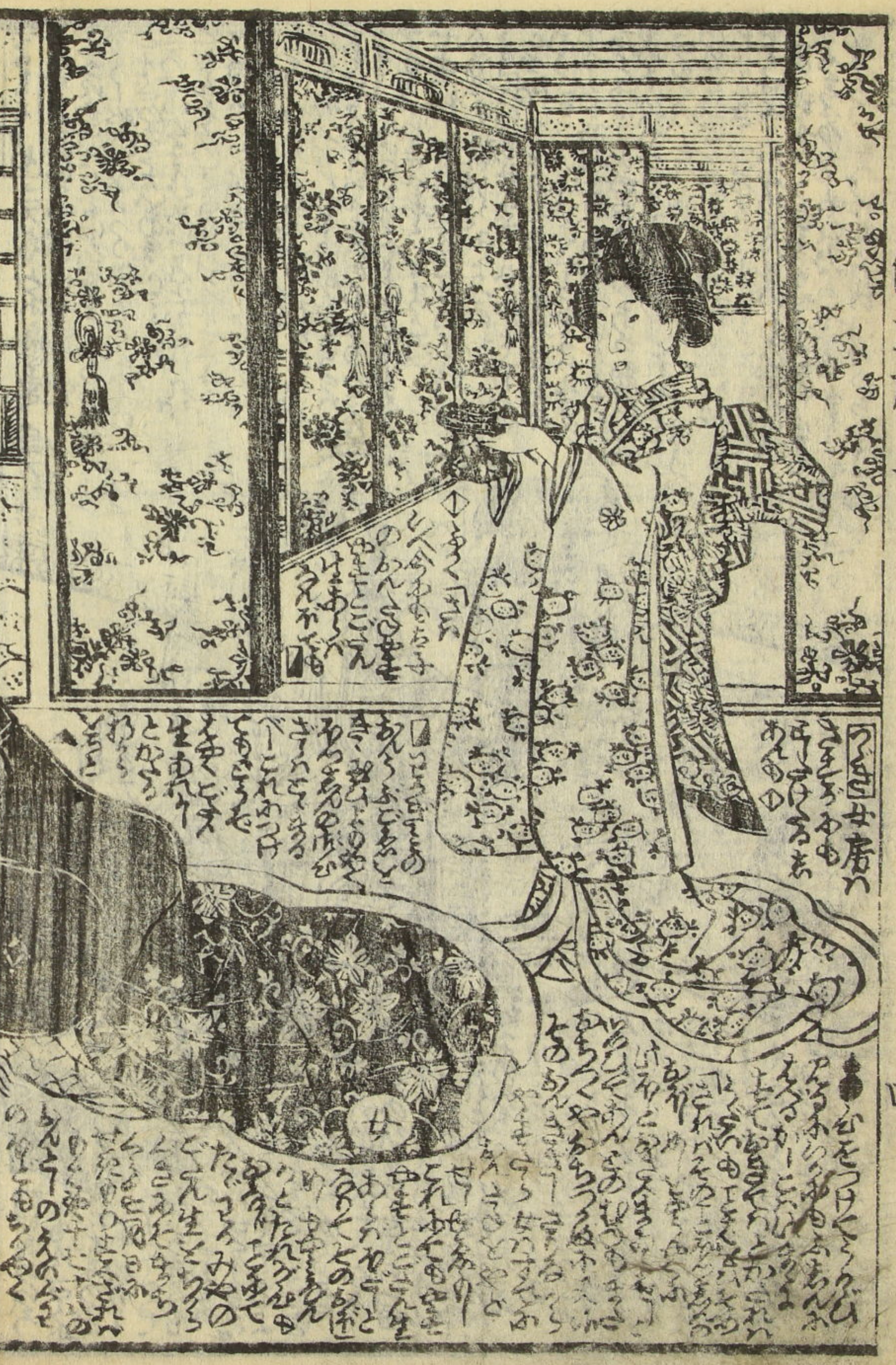
耶
輸
陀
羅
女

床
女
入
車



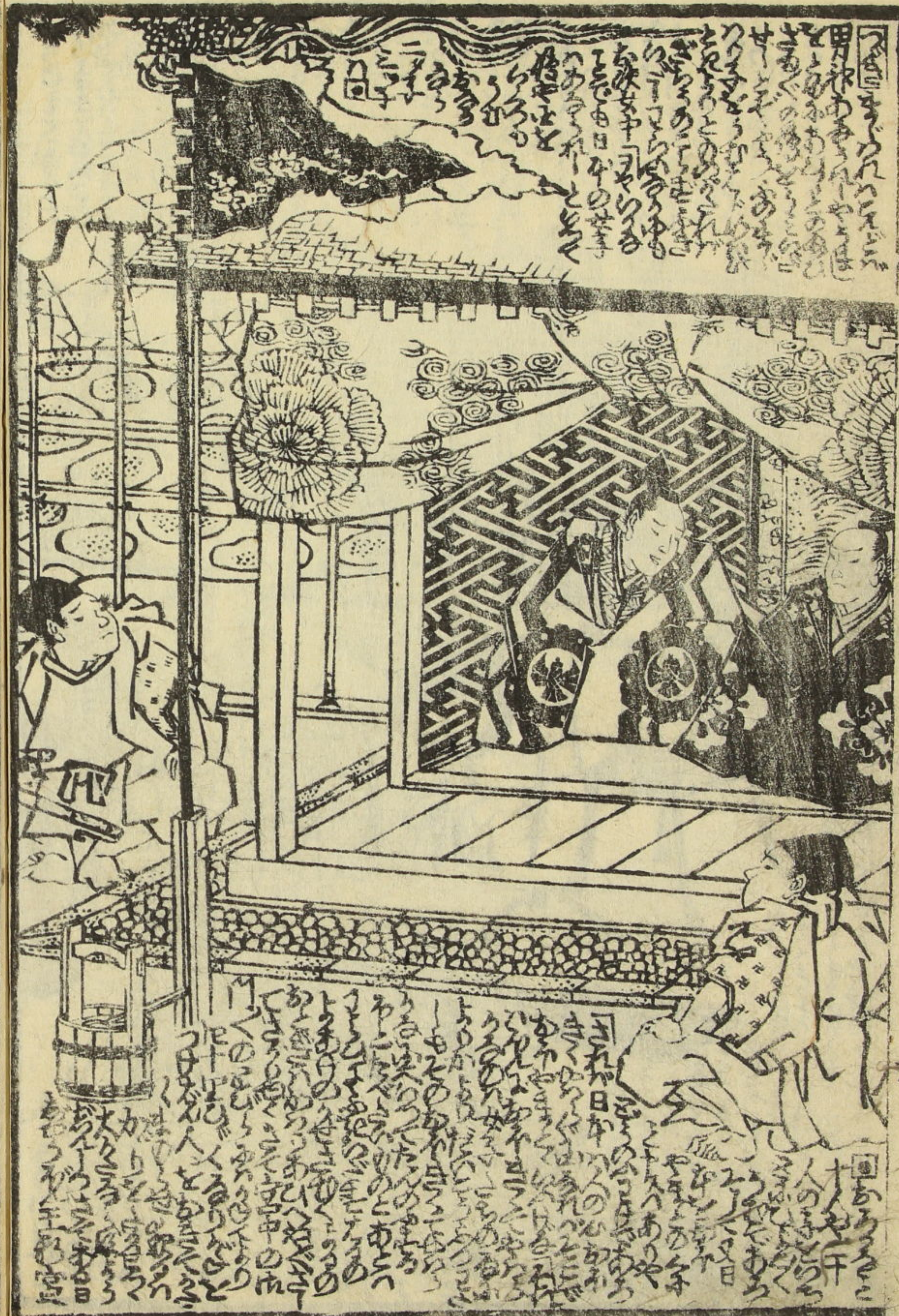
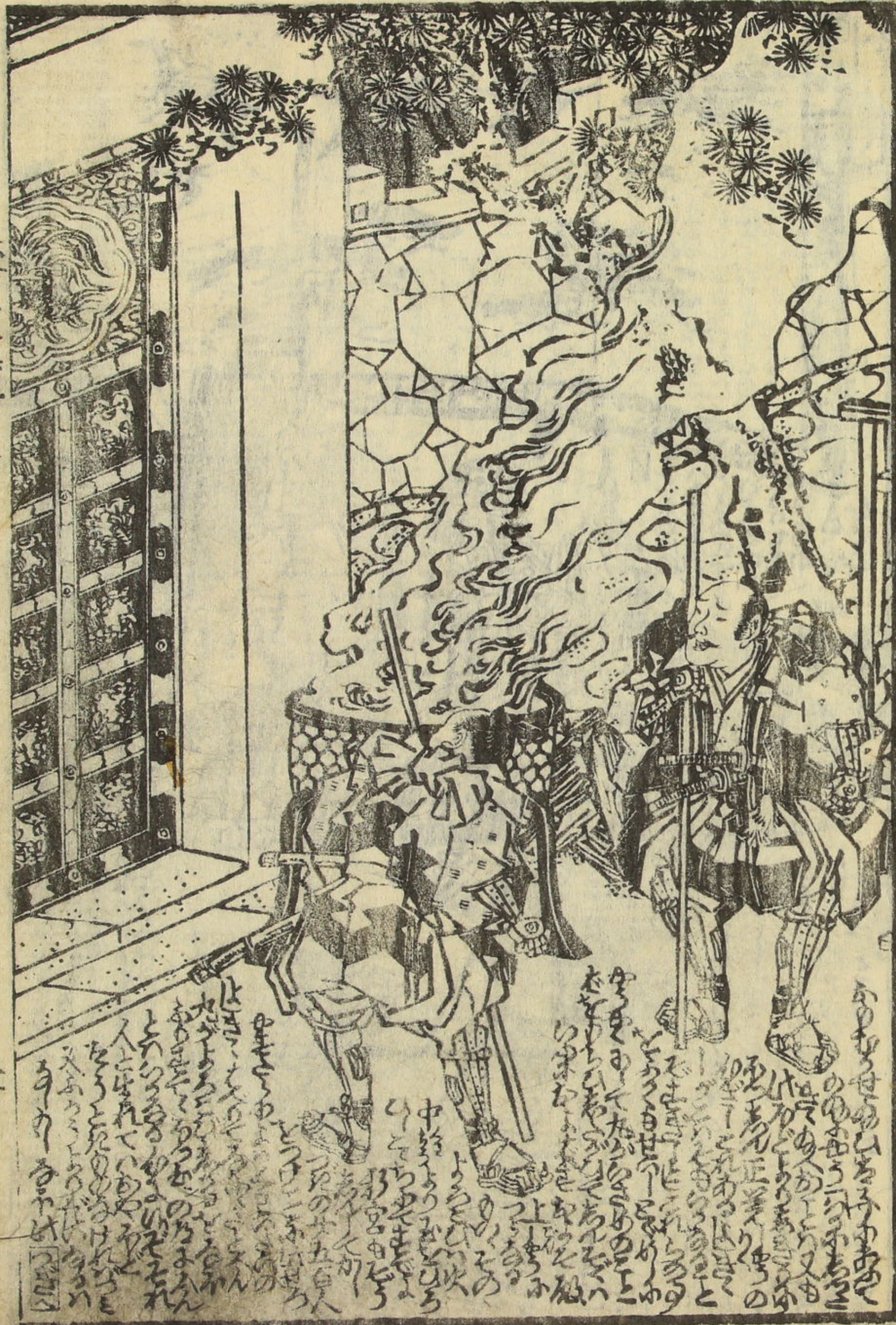
△うさぎのちま子の心
いへりていとまふか
るるといふまゆあ
のあり
さま

あつちのちま子の心
いへりていとまふか
るるといふまゆあ
のあり
さま
あつちのちま子の心
いへりていとまふか
るるといふまゆあ
のあり
さま
あつちのちま子の心
いへりていとまふか
るるといふまゆあ
のあり
さま
あつちのちま子の心
いへりていとまふか
るるといふまゆあ
のあり
さま



あつちのちま子の心
いへりていとまふか
るるといふまゆあ
のあり
さま

あつちのちま子の心
いへりていとまふか
るるといふまゆあ
のあり
さま
あつちのちま子の心
いへりていとまふか
るるといふまゆあ
のあり
さま
あつちのちま子の心
いへりていとまふか
るるといふまゆあ
のあり
さま





嘉永七甲寅新春新版日録

高祖朝 日衣 一名 蓮記 二編 三編 同 一勇齋國芳 作	茶番 案文 同 一萬亭應賀 作	花山吹百人 女郎 初編 二編 一陽齋豐國 作	譚柄瑠璃 草 一名 朝顏草紙 三編 四編 一勇齋國芳 作	重井菱染別小紋 三編 四編 一陽齋豐國 作	赤松 譚 九編 十編 同 一圓齋國磨 作	神代 河草 三編 四編 同 一淵外史 作	倭文庫 北七編 三十三編迄 為年 出板仕 一萬亭應賀 作
--	-----------------------------	---------------------------------------	---	-----------------------------------	--	--	--

應賀作曲豊國画



